

群馬総社 “駅まち” ビジョン

群馬総社駅周辺まちづくり方針

1 策定の背景、ビジョンの位置づけ

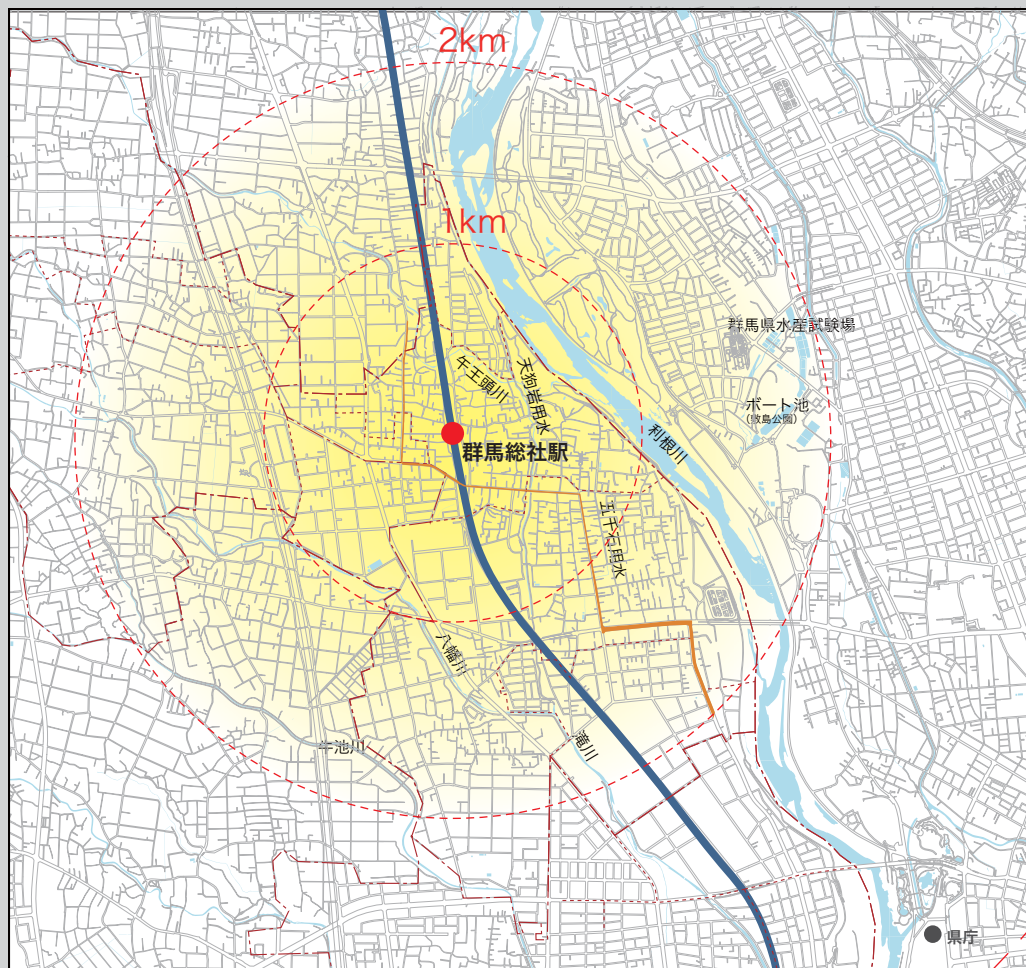
JR群馬総社駅は、改札が駅東側のみのため、朝・夕の送迎車による駅前の道路混雑や駅西側からのアクセス性が悪い状況である。そのため、駅周辺の利便性向上を目的に、駅舎・東西自由通路及び群馬総社西口線（西口駅前広場及びアクセス道路）を整備する群馬総社駅整備事業が計画されている。

「群馬総社“駅まち”ビジョン」は、本市の上位・関連計画を踏まえつつ、この駅整備事業を契機に、JR群馬総社駅が将来に渡って、市民や駅利用者に親しまれる駅となるよう、駅を中心としたまちづくりの方向性を定めるものである。

また、本ビジョンは駅を中心としたまちづくりの方向性を示すとともに、行政だけでなく、市民や関係事業者等とビジョンを共有することで、「総社らしい」駅まちエリアの実現に繋げることを目的としている。

平成 22 年度 平成 23 年度	西口開設（橋上化）の地元要望
平成 25 年度	地元勉強会の開催（計 4 回）
平成 26 年度	都市計画決定に向けた地権者説明会
平成 27 年度	西口駅前広場及び群馬総社駅西口線の都市計画決定
平成 28 年度 平成 29 年度	事業スケジュール及び道路線形の地権者説明会
平成 30 年度	駅舎及び自由通路の基礎調査
令和元年度	基礎調査の結果を基に JR 東日本と協議
	地元説明会（令和 2 年 2 月 13 日・14 日）
令和 2 年度	整備案（具体案）の作成
令和 3 年度	調査設計（土木）実施（地質調査など）
	まちづくり調査業務
令和 4 年度	調査設計（土木）の結果を基に JR 東日本と協議
	地元説明会（令和 5 年 1 月 27 日・28 日）
令和 5 年度	JR 東日本と基本協定締結（駅舎・自由通路の整備）

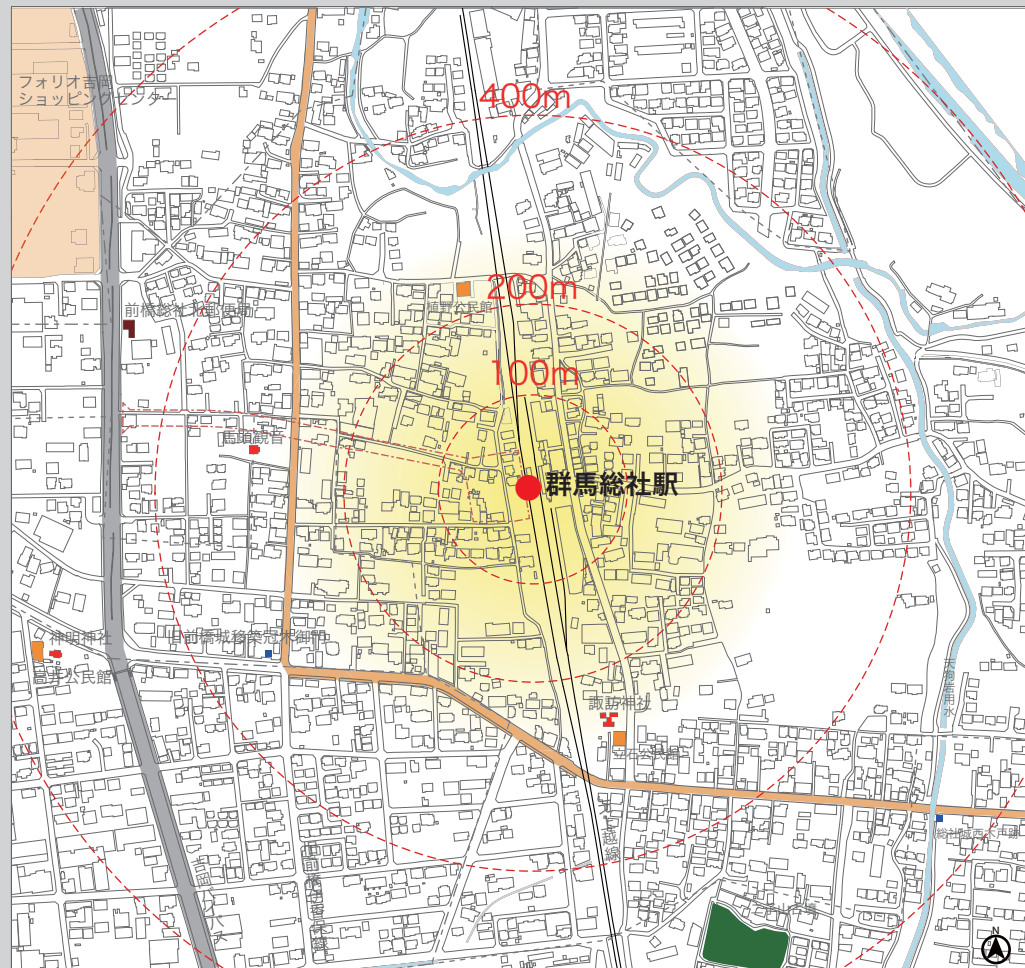
図：これまでの経緯



1. 群馬総社駅周辺

群馬総社駅周辺は、駅を中心とした
概ね半径 1km の範囲である。

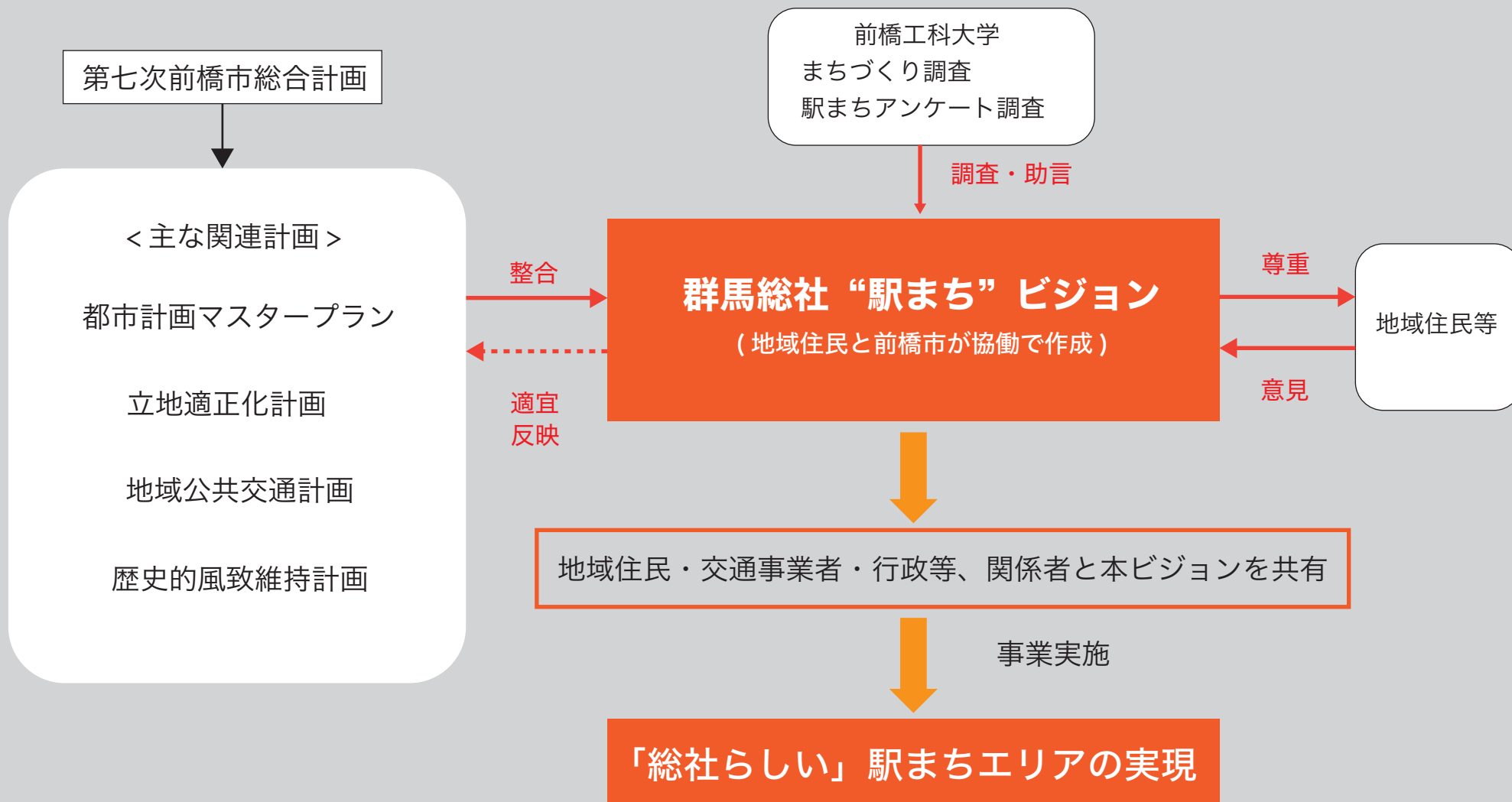
策定内容： **群馬総社駅周辺将来像**



2. 駅まちエリア

駅まちエリアは、駅を中心とした
概ね半径 100～200m の範囲である。

策定内容： **駅まちエリアコンセプト
将来イメージ**



図：ビジョンと上位計画・関連計画等の関係性

2 群馬総社駅周辺の 地域特性分析 (つよみとよわみ)

ビジョン策定の基礎資料として、社会的条件（人口、産業、都市計画、開発動向、周辺施設状況、公共交通機関等）を整理する。過年度に実施された調査業務や前橋工科大学 * の調査・研究資料等を、4 つのテーマ（1. 交流・コミュニティ、2. 生活・商い、3. 自然・歴史・文化・景観、4. 交通・安全）ごとに整理をし、群馬総社駅周辺の地域特性を「つよみ」と「よわみ」を分析した。

* 環境・都市デザイン / ランドスケープアーキテクチャ研究室による

	つよみ	よわみ
交流・コミュニティ	若年層、子育て世代の増加 住環境の需要性が高い 旧コミュニティの継承と新しい文化形成への期待	子どもの遊び場や地域文化活動の場の偏在
生活・商い	西側バイパス沿いの生活利便施設の充実 のどかな田園・田舎生活	徒歩圏の医療環境が脆弱 徒歩圏の範囲の生活利便施設が少ない

	つよみ	よわみ
自然・歴史・文化・景観	旧街道沿いの街並や建築を活用した町おこしの可能性 古墳や用水や街道などの文化資源・歴史資源・自然資源 細街路・水路ネットワーク	「総社らしい」地域資源があまり活かされていない
交通・安全	新幹線や高速道路へのアクセス性が高い 強固な地盤があり、洪水等のリスクが低い	車や免許を所持しない地域住民の交通弱者化 補完的な地域公共交通網（バス、自転車等）や動線が脆弱 交通量の偏り 緊急車両動線網が脆弱

3 市民の意見集約

群馬総社駅周辺の将来像及び駅まちエリアのコンセプトを策定するために地域住民、自治会長、駅利用者、駅周辺店舗オーナー等、約35名とともに、群馬総社駅の未来について考える「群馬総社駅まちワークショップ」を2回開催し、意見を収集した。

本ワークショップでは地域で活躍する方や学識経験者からの講話を聴く、「駅まちトーク」、グループごとにテーマに沿って意見交換を行う「駅まちディスカッション」の2部構成とし、「駅まちトーク」を通じて、参加者が群馬総社駅周辺の新しい魅力に気づき、「自分ごと」として、まちづくりに参加してもらおうきっかけづくりになるよう工夫した。



群馬総社駅まちワークショップ 開催風景



ワーク①群馬総社駅周辺の将来像（グランドデザイン）を考えよう



駅まちエリア



ワーク②新しい駅まちエリアの使い方を考えよう



第2回 群馬総社駅まちワークシヨップ

[illegible]

ワーク①群馬総社駅周辺の将来像（グランドデザイン）を確認しよう



群馬総社駅周辺 将来像



ワーク②「駅まちタイムライン（1日の流れ）」をつくろう



駅まちエリアコンセプト / 将来イメージ

4 群馬総社駅周辺 の将来像

2.群馬総社駅周辺の地域特性分析（つよみとよわみ）と3.市民の意見抽出をもとに、群馬総社駅周辺（駅を中心とした半径1kmの範囲）の将来像をテーマごとに作成した。

交流・コミュニティ

繋がりを紡ぎあい、
みんなが活躍できるやさしいまち

生活・商い

暮らしの落ち着きと
商いの活気が共存するまち

自然・歴史・文化・景観

豊かな自然と古の歴史が、
総社らしい文化を育むまち

交通・安全

歩いて楽しい、
安心で快適なまち

5 駅まちエリアの コンセプト・

将来イメージ

駅まちエリアコンセプト

2. 群馬総社駅周辺の地域特性分析（つよみとよわみ）や
3. 市民の意見抽出、そして4. 群馬総社駅周辺の将来像をもと
に、駅まちエリア（駅を中心とした半径100～200mの範囲）の
コンセプトと時間・場所ごとの将来イメージを策定した。

重なりあう まちの風景

まちの風景 = 自然や歴史、文化が感じられる 雄大な景色

まちの風景 = 暮らしのシーン（出来事、場面）

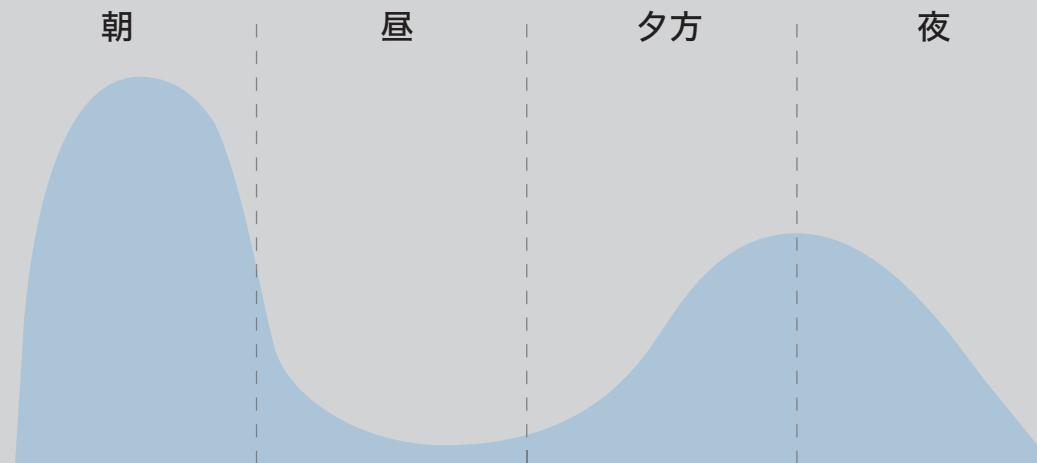
新しい駅まちエリアは、雄大な山々の風景を眺められる場所であり、

群馬総社らしい風景に出会える場所

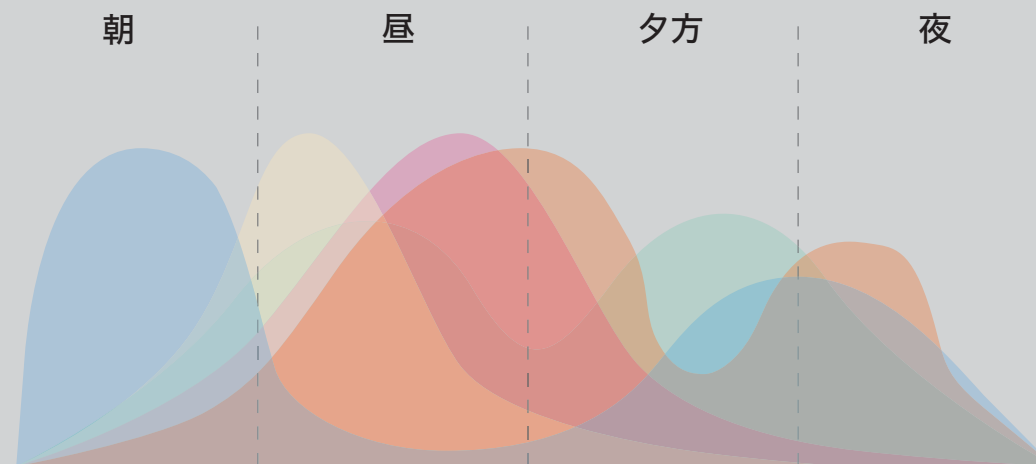
多様な世代にとっての居場所があり、暮らしのシーンが展開される場所

そんなまちの風景が重なりあい、

人々の繋がりや総社らしい文化を育んでいく駅まちへ



これまでの駅まちエリア = 交通の風景



これからの駅まちエリア = いろんな風景が重なりあう

交流・コミュニティ

生活・商い

自然・歴史・文化・景観

交通・安全

朝



駅近くのパーキングに停める



ロータリーまで子供を送る



駅までバスで向かう



駅まで自転車で向かう



駅近くの保育園に子供を預ける

スムーズで便利な「朝の駅まち」

朝はスムーズさ便利さが重要であり、駅の西口開設により朝の通勤・通学時間帯の送迎による駅前の混雑解消及び西口駅前広場への路線バスの乗り入れを検討し、公共交通の利便性向上を目指す。

昼



駅前でおしゃべりをする



広場にマットをして体操をする



地域住民が集まって教室で勉強会



お年寄りが子供を見守る



駅前広場で庭いじりをする



駅前のママ会・パパ会

公園のように集える「昼の駅まち」

朝の通勤・通学のピークが過ぎた時間は、駅前広場を中心に多世代が集える場所を目指す。

夕



自由通路で夕焼けや山々を眺める



ロータリーまで子供を迎えに行く



駅前広場でバスを待つ



友人と勉強して迎えを待つ

待ち時間も充実する「夕方の駅まち」

夕方の帰宅ラッシュの時間は、バスやお迎えを待つ人が自由通路や駅前広場において滞留できる場の充実を目指す。

また、お迎えを待つ人が近隣の既存商業施設等へスムーズに移動できる仕組みづくりを検討することで待ち合わせ空間を広げ、駅前広場への送迎車の一極集中の緩和を目指す。

夜



みんなで立ち飲み



駅周辺で居酒屋をハシゴする



町の人が弾き語りをする



自由通路から夜景を眺める

静かで落ち着く「夜の駅まち」

暮らしの場が近い駅であるからこそ、賑わいだけでなく穏やかであり、かつ安心できる駅まちを目指す。

休



SLを見る



自転車をレンタルしてサイクリング



駅前広場で子供とピクニック



自由通路で展示会



駅前広場でマルシェ



バスを使ってショッピング

新しい出会いがある「休日の駅まち」

休日は地域住民のみならず来街者も交えて、総社の魅力を発信する拠点、多様な活動が展開されるオープンスペースとしての駅まちを目指す。

場所ごとの将来イメージ

隣接地域

総社らしい文化が育まれる「ツチ」

若い世代による起業や、こだわりをもった商い、互いのスキルを活かした学び合いの場など、地域の歴史や資源を活かして、まちの文化が育つ場所



駅前広場

多様な活動を受けとめる「ニワ」

時間によって変化するまちのリズムを柔軟に受け止め、役割が変化する場所

駅・自由通路

総社の魅力を眺める「マド」

総社の魅力である山々を眺める場、また地域の活動を展示等によって情報発信（眺める）する場所



隣接地域

総社らしい文化が育まれる「ツチ」

若い世代による起業や、こだわりをもった商い、互いのスキルを活かした学び合いの場など、地域の歴史や資源を活かして、まちの文化が育つ場所

例：旧本間酒造でのイベント（群馬総社駅周辺）



出典：llemo website <https://llemo.net/honmasyuzo/>

例：SAMURAI COFFEE（群馬総社駅周辺）



駅まちエリアには蔵や空き家などが多く存在する。歴史的な空間資源を活かして、新しいチャレンジが生まれ、総社らしい活動が育っていく土壌、「ツチ」となるように、資源の発掘や機会づくりが重要となる。

駅前広場

多様な活動を受けとめる「ニワ」

時間によって変化するまちのリズムを柔軟に受け止め、役割が変化する場所

例：JR北本駅前ピクニック（埼玉）



出典：北本らしい“顔”の駅前づくりプロジェクト アーカイブログ
<http://kitamotoekimae.seesaa.net/article/277090273.html>

例：OMIYA STREET MARKET（埼玉）



出典：アーバンデザインセンター大宮

公園の少ない群馬総社駅周辺において、駅前広場は地域の「ニワ」として親しまれる場所を目指す。日常においては自然を感じながら静かにたたずむ場所があり、休日はマーケットなどのイベントが実施できる、まちのリズムに合わせて多様な活動を受け止める場所を目指す。

駅・自由通路

総社の魅力を眺める「マド」

総社の魅力である山々を眺める場、また地域の活動を展示等によって、情報発信（眺める）する場所

例：JR 桐生駅構内 多目的スペース「オーライ」（桐生）



例：JR 米子駅 自由通路展望スペース（鳥取）



出典：毎日新聞 <https://mainichi.jp/articles/20230803/k00/00m/040/100000c>

駅や自由通路は、赤城山や榛名山などの山々の景観を眺めることができる貴重な空間である。また総社を訪れる人の玄関口になるため、地域活動等の情報発信拠点としての役割を持つことが重要である。雄大な自然や魅力的な活動を感じるための「マド」となることを目指す。